

特定非営利活動法人

日本雲南聯誼協会

【本部】〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1
JR東急黒崎ビル7F

Tel. (03) 5435-5977 Fax. (03) 5435-5978

Email: yunnan@jyfa.org

URL: http://www.jyfa.org

【雲南事務局】雲南省昆明市人民東路289号集大広場20階2011室

Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野憲蘭

印刷協力 普天日経印刷 懇親技術評論社



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第20号

発行日 2006年(平成18年)6月10日

会報

第8・9校目小学校開校式 山岳少数民族の地に届く確かな支援

この度当協会の支援により建設された第8、9校目の開校式ツアーパーに同行、開校式に参列してきました。一行は初鹿野理事長を団長として第9校目のご支援をいただいたNPO天眞会の青木宏之代表をはじめ11名のメンバーで、4月10日から16日の日程で昆明から西の大瑞白族自治州、南の紅河哈尼族自治州へと嬉しい中にも和気あいあいとした旅行となりました。そして当協会の善意が確かな形で届けられ、子供たちの素晴らしい笑顔に囲まれ、また村人たちの純朴な歓迎に疲れも忘れる毎日でした。

大理行きの飛行機が強風のため着陸できず昆明へ引き返すハプニングや悪路の苦闘もありましたが皆さん元気にそれぞれの思い出を胸に帰途に就かされました。



左から
祥雲県知事、全国債券李坦浦副主席、初鹿野理事長、天眞会青木宏之
代表、祥雲県教育局無光主席、初鹿野理事長、天眞会青木宏之



⑧日中友好紅河他撒僑心小学校
⑨祥雲縣禾甸鎮小学校、日中友好
僑心樓

●第8校目 日中友好紅河他撒哈尼ハニ族僑心小学校

4月13日の朝、昆明を出発した一行の車は一路南を目指し海拔も下がって紅河の流域沿いの道路へ出ました。この河を下れば雲南省で一番低い海拔76mの「河口」からベトナムへ繋がる所です。一行はこの川沿いの道路から逆に2時間かけて山道を登り世界的にも知られた「元陽の棚田」を参観しました。網の目のように張り巡らされた棚田には田植え前の水が張られていて、夕モヤや暮れ棚田に夕日が反射して視界を越える遙か遠くは墨絵の様に山並みに滲んで消えていました。

ここで開校式、歓迎式は素朴で質素なものでした。協会支援の校舎は残念ながらまだ最後までは完成していませんでした。雨の日が続いた天候のせいもあるようですが、ここではまだ人為的な計画が予定通りに進ぶほど

拓かれていないのです。教育現場にせよ「読み、書き、計算」が教育なのかそれ以前の「道徳、人としての尊厳」を如何に子供たちに教えて行くかを考えさせられることもありました。

自給自足の、文明とは余りにも隔絶された土地で生まれ育った、汚れない子供たちの笑顔や清らかな瞳を見るにつけて、この子たちの一生がより安穏にそしてより逞しく荒波を乗り越えられる様に願わざにはいられませんでした。それにはよりよい環境で多くの知識と心の自立を教える学校であって欲しいと願いながら学校を後にしました。

山岳少数民族である哈尼(ハニ)族は紀元前3世紀頃から雲南南部に住みつき総人口は2000年統計で144万人に過ぎません。多くは1000~2500mの山岳に住み棚田を耕し、茶を栽培する教育や文化とは無縁の生活をしてきました。この地域の35歳以上の女性の100%が文盲と聞くと少数民族が如何に文明とかけ離れた生活をして来たかが窺い知れます。

翌日14日早朝、一行は雲間に包まれた元陽から一旦山を下り、四輪駆動の小型の車に分乗して山岳にある他撒小学校へと向かってきました。山道には割れ石が散かれていますが、一箇所として平らでなく両手をすりに握り、身体を大きく上下左右に揺られながら山の頂に近い他撒へ向かいました。車を降りて急勾配の道を学校に向かう時は既にお昼になっていましたが、道の両側には子供たちの笑顔の行列が続いていました。

私たちの支援も、彼等に真に必要なのは何かを考え、今後も引き続き見守り支援していきたいと心に刻んだ旅となりました。



学校を作ってくれてありがとう！！



写真上段
左) 人懐っこい子供達
中) 先生・村人・子供達・そしてツアーパートナー全員で歌と踊りで開校をお祝いしました
右) ハニ族の衣装を着た子供達と校庭で記念撮影
写真下段
左) 子供達の家 日干し煉瓦と泥で作られています
中) お母さんたちも開校式を一目見ようと集まりました
右) 現在3階部分を建設中の新校舎 完成も近です

●第9校目 祥雲県禾甸鎮小学校、日中友好僑心樓

4月12日早朝大
理を出発した車はバ
トカーの先導の下舗
装された山道を登
り、一路学校所在地
へと向かいました。
石を敷き詰めた道路
は意外に広く平らで
予定の

11時ほど定刻に村
に入り、程なく学校
の正門へ到着したの
でした。

折しも旧暦3月1
5日のこの日は13
00年の歴史ある白族の一番盛大な祝日「三月街」で村
は丁度この落成式を祝うかのような賑わいでました。校門
を入ると歓迎の通路には深緑の長い松の葉が敷き詰めら
れ、清らかな香りが心地よい。普通、春節（旧正月）に
大事なお客様を迎える時に用意する「清香松」を、この日
ばかりは早朝に山へ登って刈り集めたとのことで村人の
感謝の気持ちがひしひしと伝わってきました。今回の校
舎は老朽化した分校を統合する形で、従来の本校の校庭
を「コ」の字型に改むよう建てられました。一行の眼前
に姿を現した新校舎は同じ3階建てながら古い二つの建
物を左と前方に見下ろすように一段と高く聳えていました。
そして3階には「日中友好僑心樓」の文字が大きく
輝いていました。式典は子供たちの鼓笛の隊列、白族正
装の先生方などこの日のために周到に準備されていて、
多くの村人達も囃りを取り組み喜びを分かち合いました。
子供たちの笑顔、小柄な校長先生の誇らしげな立ち居振
舞いに、参加者の皆様も大満足の一日となりました。

一民間の小さな支援でもここでは確実にその善意が届け
られ、子供たちの学びの場の中に「日中友好」の文字が
刻まれています。その友好の輪が大きく育ち、広がるの
を願わずにはいられません。

最後になりましたが、第9校目友好校舎建設に多大なる
ご支援をいただき、ツアーにご参加くださいました青
木宏之様はじめNPO天真会の皆様へここに改めて感謝
の気持ちを表します。（文・昆明事務局長南里稔）



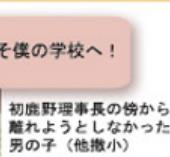
支援者NPO天真会青木代表から

「日中友好樓」と名づけられた校舎に
大きく名前が掲げられました

小学校建設に多大なるご支援をいただきました

④第8校目
ひろしま祈りの石
国際教育財団

⑤第9校目
NPO天真会
原アカデミー



思い出を胸に… 開校式ツアースナップ集



ビデオカメラを持つ太田さん、あっという間に
興味津々の子供たちに囲まれてしましました



ここが教室です、と
内をじっくり見てくださった校長先生



他撒村の子供達
も先生方もみなで
とても友好的で
人懐っこい印象



には他撒小の目の前
の景色が
には壮大な耕田



開校式を終え、校門の前に子供達と一緒に記念撮影（禾甸小）



開校式を終え、学校で村の人々が準備してくれたこはん
を開校式を終え、学校で村の人々が準備してくれたこはん
をいただきました（他撒小）



学校名	日中友好他撒 ハニ族僑心小学校	祥雲県禾甸鎮小学校 日中友好僑心樓	協会では、開校式の際、学校の実 際調査をし、状況把握に努めます。 今回、特に他撒小学校では校長先 生が職務まで学校案内をしてくれ ました。校舎完成の際にはもう一 度学校を訪問する上約束し、最短 に着いたのでした。
住所	紅河県甲寅郡他撒村	祥雲県禾甸鎮換村	
新築教室概要	3階建て15教室	3階建て9教室	
児童数 民族	490名 ハニ族	621名（14クラス）ベー族	
教職員数	24名	34名	
寄宿生数	97名（※全て6年生）	なし	
その他 学校や地域の 特色や民族に ついてなど	学校のすぐ目の前には この辺りの収入源である 穀作のための畠田が 山肌一面に広がっています。	日中友好樓は近隣の上朋小を禾 甸小と合併する為に建設されま した。ベー族についてはP.4の 連載「25の星たち」をご覧く ださい。	

★☆今回のツアー参加者 横不間敬称略☆★

青木宏之（NPO天真会代表）・原久子（原アカデミー代表）・吉田晶子
中谷羅子・小寺かをる・宇田川穂史・太田真理子（会員）
+ 初鹿野理事長はじめ協会関係者スタッフ の計11名

NHK取材チームに 協力しました!

協会の活動拠点、雲南省現地からの話題を、毎回昆明事務局がお届けする連載です！

連載：ニイハオ！昆明事務局です vol.4

ゴールデンウィークの5月1～3日、そして5月4日間、NHK朝の情報番組「おはよう日本」で、中継シリーズ「変わる“桃源郷”」と題し、雲南省が紹介されました。はじめの3日間は10分ほど、最終日の5日は祝日特集ということで25分にわたる放送でした。放送では、日本テレビ界初の試みである麗江からの生中継を織り交ぜ、経済発展に伴う社会の変化や豊かな民族文化が紹介されました。協会も協力団体として参加し、長期にわたり日本と雲南で様々な準備を経ての特集でした。

2月に始まり放送までの4ヶ月間、協会では調査や資料翻訳、連絡などに力を注いてきました。3月30日には、日黒の協会事務局にてNHKスタッフの方々と最終打ち合わせが行われ、4月6日には取材チームが昆明入り。そこから約1ヶ月にわたる雲南現地取材が始まったのです。

LIVE!



絶景を前に麗江からの生中継



取材チームと現地協力者たちとともに

4月7日、山のような機材と共に昆明に到着したNHKチームは早速雲南省東南部の文山州と昆明の二重に分かれ、取材と調査に取り掛かりました。それから立て続けに、「水かけ祭り」で賑わう南部のシーサンパンナ、昆明事務局二見も同行した北西部シャングリラと徳欽、そして中部の紅河州元陽、個旧と省内を駆け回る取材が行われました。

4月25日からは、日本から残りのNHKスタッフの方々も合流し、二見を含む10名ほどの一行は中継とその準備のため、世界遺産の街、麗江に向かいました。麗江では毎日続々下見や取材、衛生中継の準備、中継のある日は寒さの厳しい早朝4時から準備にかかるなど、中継の舞台裏を目にすることができます。一方、協会事務局でも放送日に東京のスタジオで使用した雲南の食材を調達するなど、準備が続きました。

4回にわたる中継は天候にも恵まれ、大成功。朝日に輝く玉龍雪山や束河古鎮、市場や麗江古城の様子が生で日本に伝えられました。なんと2日目の放送では、同行していた二見が通訳として出演する一幕もありました。雲南の魅力はもちろん、経済発展の中で変化していく様子を伝えた今回の放送。これはまた、日本の皆さんに広く雲南省を紹介できる機会でもありました。そんな番組の制作に協力でき、私達も嬉しい気持ちで一杯です。協会では、今後もこのような機会を活かし、雲南省を応援していきたいと思っています。

東京・昆明事務局の合同会議



移転したばかりの昆明事務局で
深夜まで真剣な討議が続きました

2006年4月14日、昆明事務局にて、協会設立以来はじめてとなる東京・昆明事務局合同会議が開かれました。忙しい開校式ツアーの合間に縫って、初鹿野理事長、南里事務局長、曹光顧問をはじめ両事務局のスタッフが集まり、夜の10時から2時間半にも及ぶ話し合いが行われました。

主な議題は、事務局における現在の問題点、今後の活動についてです。中でも熱心に話し合われたのが、昆明事務局が今後どのような役割を担ってゆくかという点についてでした。スタッフ一同、活発に意見を交わしあい、得るものの大好きな会議となりました。今後もさらに連携を強め、円滑な運営を目指したいと思います。



3月22日・30日は東京事務局で打ち合せ

みんなの想いは一つ
雲南省の真実を伝えたい！

花と緑の祭典 ～国際友好フェア～

2006年5月3～4日、さいたま市市民の森貝沼グリーンセンターで「花と緑の祭典～国際友好フェア～」が開催され、当協会会員・ボランティアの羅ケイ明（寺内明子）さん、雲南食文化研究会会長・平林知人さん、島羽清弘さんが中心となって、「秘境の地・雲南」ブースを出展しました。当日は晴れらしい快晴に恵まれ、会場はたくさんの人で溢れかえりました。雲南ブースには、同日放送されたNHK「おはよう日本」による雲南生中継の影響もあって、多くの人が遊びにきてくれました。

【当日参加された
ボランティア（敬称略）】

羅ケイ明、平林知人、島羽清弘、市川由美子、藤田安美知、吉田佑佑、吉田泰久、寺内憲一

お疲れさまでした！！



ボランティアの皆さん、雲南ブースの前で記念撮影



雲南ブースは大盛況、協会報も人気でした

【島羽清弘さんからのお便り】

会場は五月晴れの2日間、10万人位の方々が集まりました。日本雲南聯説協会の絶大なご協力で「雲南食文化研究会」も初参加しました。折から5月1日～5日、NHK「おはよう日本」の中で雲南省が紹介されており、それを見た雲南ファンの方々が、数多く来られました。お蔭様で大成功のうちに終了することができました。開催にあたり多大なご支援ご協力を賜り、心より感謝いたします。謝々！

【平林知人さんからのお便り】

横綱腹にも拘わらずテキパキと取り仕切り、宣伝や歌声大会で観客衆をアッと言わせ、ユーモアを振りまいてくれた寺内さん。その形でしっかりと支えてくれている且那さん。明るくお勧め上手な吉田夫妻。目の離せなくなつたま一ちゃんをしっかり面倒みてくれた市川さん。私の庭だよ、と自転車で駆けつけで戴いた、藤田先生。身の内で不幸が重なつたにも拘わらず、写真、看板と細かい気配りをしてくれた島羽さん。最後の何の戦力にもならず、トンバ文字のMYラベル日本酒を持ち込み、悦に入つただけのHさん。まあいいか…

雲南同郷会に参加しました



4月11日、中国雲南省大理市で、帰国華僑聯合会主催「第4回世界雲南同郷联谊大会」が開かれました。

帰国華僑聯合会は、雲南省出身者が中心となって運営している組織です。世界各地で活躍している雲南省出身者が、年に一度雲南へと帰郷し、この雲南同郷联谊大会が開催されます。初鹿野理事長も雲南省出身である事から、毎年欠かさず参加してまいりました。

会議に参加することは、当協会の活動を広めるという面でも大きな意義を持っています。教育支援活動には多方面の方が興味を持ってくださり、沢山の共感を得ることができました。また会議の後に開かれた懇親会には、青木宏之様をはじめとする開校式ツアーパートナーの皆様や事務局のスタッフも参加し、雲南省の方々と交流を深めることができました。

懇親会では、全員で日本を代表し「北国の春」を披露する場面もありました。この曲は日本のみならず中国でも人気の高い曲で、集まった方々も日本語の「北国の春」に合わせ、中国語で歌の輪に加わり素敵な交流が生まれました。

協会の交流活動

●文化交流 ●医療交流 ●教育支援・交流 ●協会関連イベント

●2006年度第1回役員会

5月18日、今年度第一回となる役員会を開催しました。議題は、①2005年度決算報告、会費・寄付金などの収入状況②昨年度の活動報告③ウェブサイトリニューアル④認定NPO申請関連報の4点。当日は協会役員をはじめ、会員の東郷浩様、小沢文雄様、野々山尚毅様も駆けつけ、協会運営について意見を交わしました。協会の活動は6年目を迎え、さらに活動を活発化させてゆくには新しい発想が必要です。



議案の真剣な討議がおこなわれます

●恒例の墨美展に参加しました

5月2日から7日にかけて、東京セントラル美術館にて第23回墨美展が開催され、初鹿野理事長と、樋口忠治顧問が出席しました。

墨美展を主催する墨美会は、当協会専務理事で墨絵画家の杉谷隆志先生が代表を務める団体です。会員の歌川菜子さん、近藤鈴一さんをはじめとする多くの会員の方々も作品を展出しており、当日は会うこともできました。また、墨美展には初鹿野理事長をはじめとする多くの協会関係者も足を運びました。

●初鹿野理事長が福岡の会員と交流



福岡の交流会はとても暖やかなものに



右) 西部ガス竹野純一常務取締役

4月28日から5月2日、連休を利用し、初鹿野理事長が福岡を訪問しました。今回の大きな目的は、支援者である法人会員西部ガス株式会社にご挨拶に行くことと、最近増えつつある福岡方面の会員たちとの交流です。西部ガスではこの度小学校建設支援金をご寄附いただき、竹野純一常務取締役とお会いしました。このご縁を下さったのは福岡の樋口忠治顧問です。

初めての福岡訪問では、波平会員や福岡日中友好協会の三好様はじめ多くの方々との交流・そして出会いがありました。いかつ協会福岡支部を作ろう、という嬉しい話題も持ち上がり、実現の日も近いかもしれません。支援者や会員たちと顔を合わせられるような機会がもっと増えればいいですね。

ご存知ですか？雲南省



雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー・ラオス・ベトナムと国境を接しています。面積は約39万平方km(日本とほぼ同面積)、人口約4300万人です。国土の94%が山地で、海拔760mの鎮南河口から6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光方面からの注目を集めています。

当協会法人会員であり支援者の原久子先生の瞑想講座ご案内です！

呼吸法と瞑想を通して真我に出会うー【原久子の瞑想・呼吸法コース】

私たち人間が生活しているのは『三次元の世界』ですが、心は『異次元』の世界にあるのです。三次元で実現することは異次元（心の世界）でいったん思ったり、感じたり、想像した結果なのです。これは心の法則なので、私たちが常日頃、心の中で何を思い、どう感じるかによってその人の命運はプラスの方向にもマイナスの方向にも展開していくのです。つまり、感謝や喜びの心で生活をしている方は、感謝や喜びのある人生が展開され、不安や恐れ、不満の心で生活をしているとマイナス的な事に翻弄してしまうことになります。皆様方の理想・希望が実現する方法がこの瞑想・呼吸法コースにあります。瞑想・呼吸法コースでは、毎回、原久子の講和と瞑想・呼吸法を行っていきます。正しい瞑想呼吸法を実践してくださることによってどなたでもアルファ波の脳波が出るようになります。

【コースの内容】原久子講話・ストレッチ・ヒーリングテーマ別瞑想・呼吸法・質疑応答会
※1回体験5000円
※日程等詳細についてお問い合わせ・お申込みは原アカデミー事務局まで。

●北原理事、雲南省への病院建設を大いに語る

3月28日、東京都八王子市内にて北原脳神経外科病院、中国・雲南進出プロジェクト説明会が開催され、初鹿野理事長が駆けつけました。

北原脳神経外科の理事長北原茂史先生は当協会の理事としても活躍されており、協会との出会いが雲南省への進出の直接のきっかけとなりました。現在、実現に向けて協会も雲南省関係機関とのコーディネートや関連書類の翻訳など、全力で協力をしています。

当日、北原理事より病院進出プロジェクトの概要が述べられ、会場に集まつた企業30社以上、人数にして1000名ほどが真剣な表情で聞き入りました。日本初となる医療輸出産業。実現すれば、日本医療業界に新たな革命が起きることは間違いありません。北原脳神経外科病院は、今年度、当協会への小学校建設支援も決定しており、2009年度の開業を目指しています。



北原理事の話に会場が引き込まれます

●情報技術が拓くNPOの新しい可能性

4月21日、晴海トリトンスクエアで開催された「Microsoft NPO DAY」に事務局の七田が参加しました。

このイベントはマイクロソフト社のNPO支援紹介と、活動へのIT活用方法を具体的にセミナーを通じて学べるものでした。当日の特別講演ではマイクロソフト社ビルゲイツ会長自らが「自分が生まれ育った社会で、幸運にも教育を受け、富を得ることができた。今度は社会に対して恩返しをしたい」と常に考えている。そしてその精神を若者たちにも伝えて行きたい」と話されていたのがとても印象的でした。協会事務局でも、ITの利便性を更に活用し、事務的能率を高め、活動を活性化したいと、改めて感じた貴重な一日でした。



様々な団体からの活動紹介

●日本人の中国語作文コンクール表彰式

3月27日、第一回中国語作文コンクール表彰式が行われました。当協会の小出和夫会員の「只有交流、才能得到共同認識(交流なくして共通認識は深まらない)」がみごと第3位に入賞し、小出会員と事務局七田が式に参加しました。小出会員は退職後に中国語の学習を始め、「自分のような専門でもない者が受賞できるなんて」と驚きのご様子。小出会員、すばらしい文章での受賞おめでとうございました！



小出会員(左) 大会主催者の段薫中代表

●雲南料理に挑戦！雲南食文化研究会

4月4日、雲南食文化研究会開催の料理教室に初鹿野理事長と事務局七田が参加してきました。この教室の講師は雲南省出身で当協会の会員であり、またボランティアでもある羅ケイ明さんです。雲南食文化研究会は、日本ではほとんど知られていない雲南省の料理を研究し、月に一度、料理教室を開催しています。当日、埼玉大宮市で開かれた教室には、14人の方々が集まりました。皆さん、研究会の作成したレシピを見ながら、初めて作る雲南料理に大奮闘しました。料理教室には珍しく、男性が多く参加されていたのですが、皆さん、素晴らしい手さばきで大変驚きました。出来上がりとなりました。

ペー族の衣装をまとった少女
開校式に参列した少女

連載 雲南を彩る25の星たち

第5回 ペー族

このコーナーでは、雲南省で生活する25の少数民族

一つ一つにスポットを当て、紹介していきます。

ペー族(白族)は、主に雲南省大理ペー族自治州に住む民族。人口はおよそ134万人。その歴史は紀元前二世紀ごろまで遡る。当時、中原の漢族と緊密な交流があったため、現在でも習俗の一部に漢族の文化が受け継がれている。たとえばペー族は漢字を使う。同時に民族独自の言語もあり、ペー族は多彩な文字芸術を持っているのである。

藍染工芸も有名だ。大理の町のあちこちでは、深緑に染め抜かれた美しい藍染を見ることができる。有名な祭は三月街。日本のお彼岸によく似た祭で、この時期になると白い衣装を来て、盛りに人々の姿が見かけられる。白はペー族の間では尊敬すべき色とされ、衣装にも多く用いられているという。客をもてなすときに出す「三道茶」には、ペー族伝統のユーモアがこめられている。一杯目は苦茶、二杯目は甘茶、三杯目は回味茶。三杯目の回味茶は、甘く、苦く、辛い味がして、人生を表現しているのだと。

*協会支援第9校目の小学校(※P1-2参照)はペー族の小学校です。

活動応援のお願い

NPO法人日本・雲南那雄協会では、協会活動を応援してくれる方を募っています。会員としてのサポートや、各種イベントでのお手伝い、ご知人のご紹介やビジネスパートナーとしての登録など様々な形態のサポートがあります。詳しい情報、パンフレットや会報バックナンバーご希望の方、入会のお申し込みについては協会事務局までお気軽にお問い合わせください。



協会ボランティアが会報をお届けします！

事務所で作業中のボランティア栗水さん・小山さん

【連絡先】(東京事務局)
TEL:(03)5435-5977
メール: yunnan@jyfa.org
【会員費】
正会員 6000円/年
賛助会員 12000円/年
法人会員 18000円/年